

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

オオシオカラトンボ

(トンボ科)



鮮やかな青い身体と黒い目のトンボ。体長5～6cmで、成熟した雄は、胸や腹に青灰色の粉をふき、腹の先と複眼が黒い。雌は、腹が黄色で腹の先の黒い部分が広い。翅のつけ根に黒褐色の斑紋があるのも特徴。平地から低山の周囲に林のある池沼や小川、水田などに生息する。

成虫は、5～10月に複数回発生し、卵で1～2週間、幼虫で2～8ヶ月、水中の小動物を食べて過ごす。成虫は、飛びながらハエやカなど小型の昆虫を捕食する。成熟した雄は、水辺に止まり、縄張りをもつ。雌とは水辺の草の上などで交尾をし、雌は腹の先を水面にたたきつけて卵を産む。その間雄は飛びながら見守っている。このようにして、生き物が集まる水辺で命をつないでいる。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.69

モミ
(マツ科)

材ににおいがなく抗菌性があるため、お櫃や寿司桶、蒲鉾の板など食品に接するの用途に、その他建築、建具、棺、卒塔婆(そとうば)、パルプ材などに利用されてきましたが、現在は、資源が減り、外材に代替されています。また、クリスマスツリーの樹としても知られています。(皿)

モミは、本州、四国、九州に分布する、常緑高木の針葉樹で、樹高は40m、直径1mの大木になります。寿命は短いといわれています。高尾山は照葉樹林帯と落葉広葉樹林帯・中間温帯林帯の境界に位置しているため、尾根を中心にモミ、コナラ、カエデ等が交ざる針広混交林を形成する代表的な樹木です。

名前の由来は、枝などが風に揉み合う「揉む(モム)」や、新芽の萌黄色(もえぎ)が美しいから、万葉集の巨木(オミノキ)から転じたなど多数の説があります。

材質は、灰白色で辺心材の境目ははっきりしない。木理は通直、肌目はやや粗い。軽くやわらかいため加工しやすいが、耐朽性や強度が低くくやや狂いやすいのが特徴です。



「山の日」記念イベント

縄文時代の火起こしで樹木を学ぶ

8月11日、山の日記念として「火起こし体験を通して樹木を学ぶ」イベントを行いました。

縄文時代に行われていた火起こしの方法で、きりもみ式、ひも切り式、弓切り式の3つの方法で体験してもらいました。1日3回、一回一時間8人程度で行い最初は比較的簡単に出来るひも切り式から行いました。子供たちは戸惑いがちでしたが、やり方を会得してからはスムーズに火起こしに取り組んでいました。火種が出来たら麻縄をほぐしたものに包んで棒の先に取り付け、大きく回して炎にします。火をかざしてポーズを決めるお父さん、誇らしげな表情が印象的でした。炎になったのも気づかず棒を回し続けて、周りの人から火が付いたよといわれ思わず笑みを浮かべる子供。暑さなど吹っ飛ばして火おこしを行っていました。

参加者から「はじめてだというのに、3つの火起こし方法をすべて体験できるとは思わなかった。たのしかった。」という感想が寄せられました。

火起こしの合間には、火起こしに使う火切杵のことについて、中空になっている樹木や髓の入っている樹木を使用すること、火切臼と火切り板に回転による摩擦が生じ黒い粉ができること、この時火切杵は外側だけが回転し中心部は回転していないこと、これが中空になっていない樹木の場合は摩擦していくうちに真ん中が尖ってくること、そうなると火起こしのための回転がうまくいかなることなどについて話をしました。(富)



ワ～ 火がついた!!



「山の日」記念イベント

まるごと！高尾山 GREEN CLEAN 作戦

8月11日、山に親しむ機会を得て山の恵みに感謝する「山の日」制定を記念し、「まるごと！高尾山 GREEN CLEAN 作戦」を開催しました。

このイベントは、高尾の自然に親しみながら登山道のゴミを拾うecoハイキングで、森林インストラクター東京会との協定イベントとして平成28年から開催しています。昨年、一昨年とコロナ蔓延の影響を受け開催を見送っていましたが、本年度はコロナ罹患のリスクを減らすよう予定を一部変更して開催しました。

当日は、30℃を超える猛暑が予想されたにもかかわらず、一般参加者44名を含む総勢61名の参加を得、3班3コース（①琵琶滝コース、②稲荷山コース、③吊り橋コース）に分かれ高尾森林ふれあい推進センター前の広場をスタートし、各班とも予定どおりお昼前に山頂に到着しました。高尾森林ふれあい推進センターからも職員4名が参加し、山の日PR用の「半被」を羽織り、「のぼり旗」を持って「山の日」をPRしました。

午後はゴミを拾いながら下山しましたが、高尾山は「ゴミの持ち帰り運動」が浸透していることや、森林インストラクター東京会等が定期的に清掃登山を実施している甲斐もあり、ゴミは比較的少なく、3コースとも一人の脱落者、けが人もなく予定どおり全員下山し、無事にイベントを終えることが出来ました。（瀬）



体験林業 法政大学社会学部

8月17日（水）、東京都町田市にある法政大学社会学部の2年生6名と教官1名が当センターを訪れました。「産業と労働」をテーマに研究演習を行っている学生さんたちで、今回は、普段なじみのない林業について、現場作業の実体験も行いながら、森林・林業の政策や課題について学びたいということで当センターに受入れの依頼がありました。

当日は湿度の高い暑い日で熱中症対策をしっかりとしながら、まずは手鋸による間伐を体験。伐倒・枝払い・玉切り・運搬と1時間ほどの作業でしたが皆さん汗だくに。間髪入れず今度は大鎌による遊歩道の草刈りを体験。手工具による作業でしたが、山仕事の一端を実体験してもらえたと思います。

午後は、センターに戻り職員から簡単なレクチャーを受けた後、学生さんから色々な質問や率直な疑問が出され、予定時間を大幅に超えてのフリートークが続きました。

後日、「本や講義で学ぶ以上に発見に満ちた内容だった」「これを機に森林や林業についての関心を一層深めたい」との感想を聞き、有意義な受入れであったと思います。（枝）



日影沢でボランティア団体による森林保全活動が始まります！

林野庁では、ボランティア団体等と協定を締結して国有林のフィールドを提供することにより、多様な森林整備や保全活動の要請に対応した国民参加の森づくりを推進しています。このうち、森林内の歩道の刈り払いや森林パトロール、森の美化活動等、森林保全を目的とした活動を行うのが「多様な活動の森」です。今年4月、高尾山の国有林を管轄する東京神奈川森林管理署は、日影沢地区の国有林18ヘクタールを対象に「多様な活動の森」を設定することとし、これらの活動に加えて当センターが行っている森林教室等の支援活動をしていただく団体を公募しました。

これに対して、大平地区の国有林で同様の活動実績がある「フォレストサポート・高尾（FS高尾）」とその活動協力団体である「（一財）日本森林林業振興会東京支部」、「（一社）東京林業土木協会」が共同で応募し、6月6日に東京神奈川森林管理署長との間で4者による協定が締結されました。

ボランティア団体である「FS高尾」（代表：吉村正義氏）は、2009（平成21）年2月に設立され、現在会員は45名です。実は会員のほとんどは、当センターが毎年度、年間4回シリーズで開催している「森林カレッジ」の受講者であり、また、当センターが行う各種イベント等の協力スタッフ（フォレストサポートスタッフ）として関東森林管理局長から委嘱を受けている指導力、行動力、経験が豊かな方々です。

当面の活動としては、年間30校ほど受け入れている小学校を対象とした森林教室や一般の方を対象とした炭焼体験等各種イベントの実施支援のほか、一般の登山客も多く利用するいろはの森遊歩道の維持・修繕、樹名板の製作・取付、林内の清掃や景観保全等の活動を複数年かけて実施することとしています。当センターでは、森林環境教育等の業務の実行にボランティアの方々の支援が不可欠となっており、今後ともこれらの団体と連携しながらより充実した内容のものとなるよう努めていきたいと思っております。（枝）



頼もしいFS高尾のメンバー



森林教室の丸太切りを指導するメンバー



遊歩道の修繕のための現地確認

編集後記

高尾では、お盆を過ぎたあたりから朝晩はだいぶ過ごしやすくなってきましたが、昼間は相変わらず30℃を超える日もあります。

まだまだ熱中症予防を心がけてください。



ニラ

Forest通信 NO.403

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

